

平成28年度議会運営委員会所管事務調査報告書

所管事務調査を実施したので、下記のとおり報告する。

議会運営委員会

記

1 調査期間

平成28年5月9日（月）～5月10日（火）

2 調査先

岩手県滝沢市及び一関市

3 調査委員等

佐々木栄幸 議会運営委員長、澤里富雄 議会運営副委員長、下川原光昭 議会運営委員、山口健一 議会運営委員、高屋敷英則 議会運営委員、城内仲悦 議会運営委員、中平浩志 議長、桑田鉄男 副議長、皆川賢司 係長、大石美奈 主査、長内紳悟 主査

4 調査事項及び調査結果

(1) 滝沢市議会

- ・議会改革の取組みについて（議員間討議、市民との意見交換等）

(2) 一関市議会

- ・議会改革の取組みについて（高校生との意見交換、音声会議録認証システム等）

5 調査結果

別添のとおり

滝沢市議会

- 1 日 時 平成28年 5 月 9 日（月）午後 1 時30分～午後 3 時30分
- 2 場 所 滝沢市役所 防災庁舎201会議室
- 3 出席者

(1) 滝沢市議会

職 名	氏 名	職 名	氏 名
議長	長内信平	議会改革推進会議委員長	角掛邦彦
副議長	佐藤澄子	同副委員長	相原孝彦
議会運営委員長	山谷 仁	同副委員長	武田 哲
環境厚生常任委員長	遠藤秀鬼	議会事務局長	中村保夫
産業建設常任委員長	桜井博義	議会事務局主査	熊谷 昇

(2) 袖ヶ浦市議会

職 名	氏 名	職 名	氏 名
議会改革推進特別委員長	笹生 猛	同委員	佐久間清
同副委員長	篠崎典之	同委員	篠崎龍夫
同委員	山下信司	同委員	榎本雅司
同委員	粕谷智浩	同委員	阿津文男
同委員	緒方妙子	議会事務局副局長	生方和義
同委員	村田 稔	議会事務局副参事	多田智子

4 調査事項

議会改革の取組みについて（議員間討議、市民との意見交換等）

《概要》

平成 28 年 5 月 9 日、袖ヶ浦市議会と合同で、滝沢市議会における「議会改革の取組みについて（議員間討議と市民との意見交換）」について研修を行った。

《所感》

【佐々木栄幸 議会運営委員長】

久慈市市議会（8名）と友好協定を結んでいる千葉県袖ヶ浦市議会（9名）と合同で、岩手県滝沢市議会（9名）の研修に臨んだ。

議員間討議については、会派や議員個人、議員連盟、常任委員会、議員全員協議会で。予算・決算特別常任委員会では採決前には、政策提言を意識し「個別案件ごとのあるべき姿」を述べ、また質疑終了後は、「疑問点」を委員毎に述べ、銀間討議により疑問点の論点整理を行い、後の採決の参考にしている。

色々な角度・立場で結論を出すわけではなく話し合わせ、案件の内容が見えてくるので採決するには非常に有効な方法ではないかと感じた。

市民との意見交換については、議会報告会（地域毎）、市民懇談会（団体毎）にテーマを設けて意見を聞いている。

テーマによっては「賛成」「反対」の賛否の声が色々有り、様々な「手ごたえ」を感じているようだ。

滝沢市議会がめざす「理想像」は、政策提言型議会の実現。理想像を定め、現実に必要な改革を一連の流れで続ける。

テーマの設定がどの市議会でも難しいなと感じさせられたが、その町・街によって事情の違いを見出しながら、先進地事例を参考にしながら久慈市にあったものを見つけていきたい。非常に参考になった。

【澤里富雄 議会運営委員会副委員長】

滝沢市議会では、平成25年12月に滝沢市議会基本条例を制定し、開かれた議会、市民と共に歩む議会、行動する議会を目標とし、議員間討議の実施と市民との意見交換等を行い政策提言につなげ、「政策提言型議会」実施のための手段としている。

議員間討議は事案の質疑終了後、議員間討議により疑問点の論点整理を行い、後の採決の参考にしている。

市民との意見交換は自治会連合会と一緒に実施し、人選も自治会連合会にまかせ、ワークショップ形式で実施している。

要望等はたくさん出されるが特定の人だけの意見となることが多い。意見は広聴、広報委員会でまとめ、当局に対応を促すものと、議会として検討し具体案を提言又は立案し政策提言につなげ、次の報告会で必ず市民に報告している。

その他、滝沢市議会では、これまでの「広聴、広報常任委員会」を市民の皆様の見聞を聞く「広聴常任委員会」と議会の活動をお知らせし、その透明性を高める「広報常任委員会」の2つの委員会に分類して今まで以上に充実した組織とした。

また、市議会では「議会評価」を実施している、全国でもほとんどなく議会独自の基準で5段階で評価し、理想の議会像を目指している。

今回の研修で、議員間討議のやり方や、広聴、広報委員会を2つに分類しそれぞれの役目を明確にしたことや、議員で議会評価をしていることなど学ぶことが沢山あった、久慈市議会でも検討が必要と感じた。

【下川原光昭 委員】

議員間討議は質疑終了後、疑問点の論点整理を行い、採決の参考に出来ることで、議員間の多様な考え方を共有出来る。

市民との意見交換については、各地域ごと、各種団体、老若男女、テーマ等、意見交換は、いつでもどこでも、だれとでも出来る。このことと行政、議員の意識改革できることにより、市民満足度を上げていく。

【山口健一 委員】

私は議会運営委員会の一員として千葉県の袖ヶ浦市議会合同での議会改革等についてサル5月9日 10日滝沢市と一関を研修してまいりました。

滝沢市では、議員間討議、市民との意見交換会等について視察しました。

滝沢市では、予算、決算を常任委員会方式をとっており、質疑終了後、「疑問点」を委員ごとに述べ、議員間討議により疑問点の論点整理を行い、後の採決の参考としているとのことでした。

市民との意見交換については、議会報告会と、団体等の市民懇談会とした開催しているとのこと、議会報告会の参加者については30自治会連合会に参加以来をしているとのこと、参加者が固定化しないように工夫が必要とのこと、当市と同じような悩みがあるとのことでした。

滝沢市議会は目指しているのは、政策提言型で、議員間討議や、市民との意見交換会はそれを目指す手段で、議員のスキルアップを図りながら改革の望んでいるとのことでした。

一関市では議会改革の取り組みについて（高校生との意見交換会、音声会議録認証システム）について研修してまいりました。

高校生との意見交換会では、一関高等専門学校含む市内9校で、議長を除く全議員が5班体制で4日間の日程で午後4時から1時間程度各学校に出向いて実施したとのことでした。事前に一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略案の概要版を渡し一関市の将来像について意見交換したとのことでした。

参加者はクラブ活動等で運動部員が少なかった。高校によって意見の違いがあまりなかったが、高専は専門的な意見が多かったようです。

高校生の意見交換で出された道路の舗装状態の悪いということで、高校生自らが調

査し報告書にまとめ議会に提出したことは高校生との意見交換会の大きな成果であったとしています。今後については、参加者全員が話しやすいようにするためには、テーマの決め方や、議員スキルアップも重要な要素であるとしています。

また、音声会議録認証システムは、会議等に言葉を直接音声に変えるシステムで議事録の作成が数段早くなるとのことで、実際にシステムを活用しての説明があり、議事録作成の時間が早まると思われました。

年間経費は約100万円程度で済むとのことでした。今後ペーパーレス時代を迎えることから当市でも検討すべきではないかと思われました。

滝沢市と一関の研修は今後私共が取り組む久慈市の課題解決のため実りある研修となりました。

【高屋敷英則 委員】

滝沢市議会・一関市議会との2日間の合同研修だった。この研修により、議会改革という共通した課題を推進するにあたり、理想と現実のギャップにそれぞれの議会が苦悩している状況があきらかになった。これはこれで勉強になったが、この2日間、私は少し距離を置いて客観的に考えてみた。

議会改革に関して、私の基本的に、任期4年間（残り3年）の議会活動の中で、議会改革という観点から成果を上げなければならない現実的な事柄とはなにか。それをきちんと整理して、スピード感をもって集中的に取り組むことが重要と考えている。

そうした面から考えてみると、現在の久慈市議会では、基本条例ができ、それぞれの課題が整理されて取り組みが始まり、その取り組みの成果と検証を踏まえた対策などが協議されている。しかし、スピード不足、切り込み不足の印象は否めない。民主主義は合意形成までに時間がかかる、という反論もあるかもしれないが、ある意味で時間の無駄遣い、という印象も強く感じている。できることから地道にみんなで取り組もうという姿勢も大事だが、本質的にやらなければならないことにズバっとメスを入れる、集中的改革の姿勢を打ち出すことが肝要なのではないか。

今回は、そうした考えをもっと具体的に整理して提言できるように理論付けなければならないということを、改めて痛感させられた研修（ある意味反面教師的な研修）であった。また他議会との懇親を深めるのもいいが、酒なしの研修があってもいい。

【城内仲悦 委員】

滝沢市議会は、若い市議会にも関わらず、議員間討議・市民との意見交換会が積極的に行われていた。特に関係者との意見交換を積極的に実施していたことは、参考になりました。

一関市へ移動しての、袖ヶ浦市議会メンバーとのグループ懇親会は、有意義でした。

【桑田鉄男 副議長】

(滝沢市) 議会改革の取り組みについては、指導している先生が同じ公事からと思うが、取り組み方は類似していると感じた。

議員間討議については、総務教育、環境厚生、産業建設の他に予算決算と常任委員会とあり、特に予算決算常任委員会では、質疑終了後に疑問点を委員毎に述べ、議員間討議により疑問点の論点整理を行い、後の採決の参考にしている点と議員全員協議会でも議員間討議を行っている点に感心している。市民との意見交換会では教員報酬を話題にし報酬の増額改正にっなげらる事は参考にするべき点と感心。

一関市議会

1 日 時

平成28年 5月10日（火） 午前9時30分～午前11時00分

2 場 所

一関市役所議会棟 全員協議会室

3 応対者

職 名	氏 名	職 名	氏 名
議長	千葉大作	議会事務局次長	橋本雅郎
議会運営委員長	沼倉憲二	議会事務局長補佐兼議事係長	細川了子
議会運営副委員長	金野盛志	調査係長	及川真一

4 調査事項

議会改革の取り組みについて（高校生との意見交換、音声会議録認証システム等）

《概要》

平成28年5月10日、袖ヶ浦市議会と合同で一関市議会を訪問し、高校生との意見交換事例や音声会議録認証システムの取り扱い事例について研修した。

[平成27年度 市民（高校生）と議員の懇談会の概要]

1 班体制

5班（議長を除く全議員）。1班あたり5～6人体制。

2 実施会場数等

(1) 市民（自由参加、団体） 20会場

(2) 高校生 9校（国公立7校、私立2校）

《所感》

【佐々木栄幸 議会運営委員長】

久慈市市議会（8名）と友好協定を結んでいる千葉県袖ヶ浦市議会（9名）と合同で、岩手県一関市議会（5名）の研修に臨んだ。

高校生との意見交換については、高校9校（市内全ての高校：国公立7校、私立2校）において行われている。時期は11月25日から12月22日に渡り、時間は16時から17時（1校のみ15時15分から16時15分）に、場所は学校（1校のみ公民館）で開催されている。少ない所では1名、多い所は21名、合計101名、平均11名位の参加者である。28年度については現在各会派で検討中という。

久慈市議会でも現在、久慈市内の高校2校に於いて夏休み中に実施したいと思い進行中である。色々な面から参考にし、我々が思いつかないような発想の意見を寄せて頂きそれが久慈市の未来に繋がり、一端は都会に行ってもまた故郷に帰って来たくなるような意見を沢山出してもらいたい。そんな意見交換会をしたい。そのための有意義な研修であった。

音声会議録認証システムについては、ビックリした。音声がある程度 of 言葉に変換されていく。凄いな思った。多少の言葉の同義語等は議会用語とか一般用語とかナマリとかはだいたい要約できるようである。

これは画期的な革命であると思った。これは久慈市議会事務局でも是非設置すべきである。かなりの翻訳時間が節約できるはずである。

【澤里富雄 議会運営委員会副委員長】

一関市議会で、市の将来を担う若い人の意見を市政に反映させることを目的に高校生と議員の懇談会を開催し、市内9校に出向き開催され、延べ101名の参加があった。

開催し次のような問題が提起された

- 時間設定が難しい、時間設定は学校任せにするしかない。クラブ活動との調整が必要（開催時間により運動クラブの参加が難しい）
- 段取りは生徒会や執行部を中心に計画してもらう（段取りが重要）
- 高校側からはなぜ今、この様な懇談会が行われるのか疑問符が出された。
- 高校により教育方針が違うことから、学校ごとに実施すべきである。
一関高専からは専門的な意見が出された（他校と違う意見が多い）
- 普通高校からは身近な意見が多く、意外な点は介護の問題等も提起された。
- 出された意見は議会提言に結びつけ市政に反映させること。

久慈市議会でも、高校生との懇談会を予定しており、今回の一関市議会の取り組みは大いに参考になった。

「議事録作成支援音声認識 ASP サービス」は音声を変換し議事録作成を効率的に行うものである。

導入により情報開示のスピードアップと業務負担の軽減、効率化が図られた。マイクで収集した音声と、そうでない音声では音声認識の精度が大きく異なることから、マイクを設置している会議での議事録作成に使用している。

久慈市議会でも、方言などの変換が心配されますが、事務負担の効率化を図るために導入を検討することが必要と感じた。

今回は、袖ヶ浦議会との合同行政視察で、とても良い企画であった、今後も機会を見て実施すべきと感じた。

【下川原光昭 委員】

平成27年度 高校生との意見交換会は、11月25日、26日、
12月8日、22日、計 尹会、市内全ての高校（9校）
参加者数 101名
議会運営委員会正副委員長が各学校を訪問し、
懇談会実施の来方について確認との説明。
高校の多様な意見も、議会だけでなく、行政と共有し、
久慈市議会も、高校生との意見交換会を予定されること
から、久慈市の未来像等、テーマを上げ、意見交換の来
ればと思う。

音声会議録認識システムについては、会議録作成の
短縮、経費節約、議会職員負担軽減等いい
ことばかりと思うが...

【城内仲悦 委員】

千葉大作議長は、あいさつの中で、3・11大震災の被害額は260億円。福島第1原発の被害は大きい。山林・田畑、広葉樹の補償請求を行ってきた。稲わら・牧草・ホダギの処理が必要。国体は10月1日から、47年ぶりだ。バスケット・バレー・フェンシングの3競技が行われる。

高校生との懇談会では、9校と実施することができた。市民との懇談会は、一般参加の部と団体の部を分けて実施。一般の部は、10カ所。団体の部は10カ所、5班の編成で対応した。

参加者数は、市民=334人。高校生=101人。

久慈市議会としても、一関市議会の取り組みを参考に実施したいものと考えます。

「議事録作成支援音声認識ASPサービス」の事業概要の説明を受け、久慈市議会でも導入を検討すべきとの、認識に立ちました。

【桑田鉄男 副議長】

(一関市)

報と議員の懇談会(自由参加型、特定団体型、高校生対象)は、基本条例に
議会運営委員会が主体となり市をのりしているようだが、道庁教、団体教
学校教も多いため大変だと思ふ。その中で前年と比べて参加者数
が大幅に増加した時は素晴らしいと思ふ。
懇談会とあわせて提案の整理を連年に行ない、市長に提言書という形で
出しつつ参考になった。(報、高校生との懇談会と)
音声会議録認識システムについては、会議録作成が速くお
事から、参考にしながら可能であれば各市でも導入を検討すべき
と感じる。